

## 第24期 第4回 滋賀県スポーツ推進審議会議事録

1. 日 時： 令和5年（2023年）8月7日（月）13:00～14:30
2. 場 所： 滋賀県大津合同庁舎7-D会議室
3. 出席委員： 太田 千恵子 嘉悦 和子 門 久仁裕 高田 毅 永浜 明子  
橋本 孝子 森中 高史 山岡 彩加 横山 勝彦
- 欠席委員： 大谷 未央 後藤 敬一 高田 博之 武田 哲子 田中 ゆかり  
日比野 敏陽
- （五十音順、敬称略）
- 事務局： 谷口 文化スポーツ部長、西島 スポーツ課長、西川 交流推進室長、  
樋上 副主幹
- 関係課： 保健体育課 青木課長  
国スポ・障スポ大会局 石野副局長、南野競技力向上対策室長

### 4. 次 第

- 1 開会  
滋賀県文化スポーツ部長あいさつ
- 2 議事  
(1) 第2期滋賀県スポーツ推進計画の進捗状況について  
(2) 「みる」スポーツにつながる施策について
- 3 その他
- 4 閉会

### 配付資料

- ・会議資料
  - 資料1 第24期滋賀県スポーツ推進審議会委員名簿
  - 資料2 第2期滋賀県スポーツ推進計画の指標の状況  
別紙 第2期滋賀県スポーツ推進計画に基づく事業の実施状況
  - 資料3 「みる」スポーツにつながる施策について
- ・参考資料
  - 参考資料1 滋賀県スポーツ推進条例
  - 参考資料2 滋賀県スポーツ推進審議会条例
  - 参考資料3 第3回審議会議事録
    - （冊子）第2期滋賀県スポーツ推進計画
    - （冊子）第3期滋賀県スポーツ推進計画

## 5. 内 容

### (事務局)

皆様には、大変お忙しい中、またお足元も悪い中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。ただいまより、第24期第4回滋賀県スポーツ推進審議会を開催いたします。

本日司会進行をさせていただきます滋賀県文化スポーツ部スポーツ課の樋上でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

本日の出席状況について御報告申し上げます。本日の会議は委員定数15名のうち、出席者9名となっております。定足数の過半数を満たしておりますので、本審議会条例第6条第2項の規定に基づきまして、会議が有効に成立していることを御報告申し上げます。

なお、大谷委員、後藤委員、高田(博之)委員、武田委員、田中委員、日比野委員の6名につきましては御欠席の連絡をいただいております。

また、永浜委員、橋本委員にはWebで御出席いただいておりますので、あわせて申し添えます。

本日の会議は委員の皆様の御協力を得ながら概ね1時間半を目途に進めたいと考えております。皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

本審議会は、「滋賀県スポーツ推進審議会会議公開指針」に基づき、公開としております。本日の会議につきましては、傍聴定員10名に対し、傍聴希望者が0名でございましたことを御報告申し上げます。

本日の会議に先立ちまして、文化スポーツ部長の谷口義博が御挨拶を申し上げます。

### (滋賀県文化スポーツ部長挨拶)

皆様方には、お忙しい中、また酷暑の中、本日の会議に御出席を賜りまして、ありがとうございます。日頃は本県のスポーツ行政をはじめ、県政の推進に御支援、御協力を賜りまして、重ねて厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の2類から5類に移行し、社会経済活動における様々な規制が緩和される中、スポーツの分野においても、声を出した応援が解禁されるなど、コロナ禍前のような活動に戻りつつあります。例えば、高校野球の応援についてもご案内の通りです。

このような中で、先月に開催された世界水泳選手権と世界パラ陸上競技選手権には本県ゆかりの選手が出場し、優秀な成績を収められました。

世界水泳選手権では、乾友紀子選手が前回大会に引き続き2冠を達成されました。また、飛込競技で出場した伊藤洸輝選手と板橋美波選手は、混合シンクロ高飛込で銅メダルを獲得されました。お二人はスポーツ特別指導員として滋賀県スポーツ協会に勤めていただいております。さらに、世界パラ陸上競技選手権では、初出場の福永凌太選手が400mで金メダル、走り幅跳びで銀メダルを獲得されたところです。

各選手が競技に挑戦する姿は、多くの県民の皆さんに感動や勇気を与えており、あらためてスポーツの力を感じたところです。こうしたスポーツを「みる」ことを通じて「する」「支える」形でスポーツに親しみ、県民のこころとからだの健康につなげていくことが重要と考えています。

本日は、第2期スポーツ推進計画の進捗結果を御説明するとともに、「みる」スポーツを本県スポーツ施策にどのように活かしていくかについて議論をお願いしたいと存じます。

限られた時間ではございますが、委員の皆様それぞれのお立場から、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、開会に当たってのあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

### (事務局)

配付資料の確認を行う。

(事務局)

続きまして、今年度初の審議会となり、役職の異動等により委員の変更がございましたので、新たに委員にご就任いただきました、高田委員、森中委員に一言ご挨拶をお願いしたいと思います。  
よろしく申し上げます。

(高田委員)

今年度から滋賀県中学校体育連盟会長を勤めております、守山北中学校の高田です。どうぞよろしく申し上げます。

(森中委員)

今年度、彦根市長の後を受けまして、市長会の推薦という形で、このスポーツ審議会委員を拝命させていただきました、守山市長の森中でございます。

私自身、スポーツするのは非常に好きで、守山市としても昨年度、滋賀県民体育大会総合3位となり、人口規模で言えば7位～8位の守山が3位になったのも、もちろん点数だけではないのですが、まず幅広いスポーツに参加をされていること。それぞれそのスポーツの中でポイントを取れる競技があるということで、市民の皆様はどうやって幅広くスポーツに親しんでもらえるか。そういったことが結果もついてくる、そうするとまた皆様もやる気になるという、いい循環になるのかなというように感じました。そういった意味で今日の審議会でも、県民の皆様はどうやって、よりスポーツに親しんでいってもらえるのか、市役所の立場、自治体の立場から、お話しできればと思います。よろしく申し上げます。

(事務局)

それでは、審議会条例第6条第3項におきまして、「会長は会議の議長となる」こととされておりますので、以降の議事進行は横山会長をお願いしたいと思います。横山会長、よろしく申し上げます。

(会長)

それでは、よろしく申し上げます。議事に移らせていただきます。

議事「(1)第2期滋賀県スポーツ推進計画の進捗状況について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

それでは説明をさせていただきます。

・資料2 第2期滋賀県スポーツ推進計画の指標の状況  
別紙 第2期滋賀県スポーツ推進計画に基づく事業の実施状況

の説明

説明は以上となります。

(会長)

ありがとうございました。

政策目標と施策実施、事業展開についてご説明いただきましたけれども、その一連の流れでご質問やご意見をいただくということと、7ページからは詳細な事業実施、事業展開につきましても説明がなされておりますので、その工夫、何故達成できなかったかについて、KPIで指標が上手くいっていないというところの説明だとおもいますので、その辺りの工夫をいただくとありがたいと思います。よろしく申し上げます。

(委員)

資料2の指標の状況の中で、県障害者スポーツ大会の参加者数について、実数ベースで未達成なのは仕方ないのですが、一つ訂正をさせていただきたいのが、「未達成となった理由や背景」の欄の説明で、「20歳代以下はフェスタの部の開催や特別支援学校への働きかけなどにより回復傾向」と記載がありますが、フェスタの部は、全国大会を目指さない方や、ボッチャの場合は全国大会の障害区分では出られない方がボッチャを楽しむというかたちになります。この文章を読むと20歳代以下の人向けにフェスタの部を開催したと読み取れてしまうので、「フェスタの部の開催や」の文言は訂正させていただきたいなと思います。

(事務局)

ご指摘の通り、フェスタの部というのは気軽に参加いただけるように設けた部門で、20歳代以下に限らず色々な方が参加いただけるようにしています。20歳代以下に限定してるわけではございませんので、ここについては説明不足であったと思います。

一方で、特別支援学校には働きかけもしており、そうした取組もあって参加が伸びているということもございますので、書き方としましては、「20歳代以下につきましては特別支援学校の働きかけによって回復傾向」という形で修正させていただきますが、そちらでよろしいでしょうか。

(委員)

はい。お願いします。

あと、目標指数は平成28年度の時のもので、当時の県障害者スポーツ大会などの参加者数を基にされていると思います。今は大会自体の内容も全く変わっているので、目標人数の変更も必要かなと思います。

(事務局)

実数ベースの指標はなかなか把握するのが難しいとのご意見もございましたので、現行の第3期計画では「のべ数」をベースに数えるという形にしております。指標の出し方を少し変えて、全体の参加者数は増やしていこうという形で取り組んでいこうと思っており、そういう形の見直しをしておりますので、ご理解いただければと思います。

(委員)

ありがとうございます。

(会長)

では、整合性のあるように書きぶりを変えていただくということでよろしくお願いします。その他、ご感想でも結構ですので、よろしくお願いします。

(委員)

まず一点は質問で、コロナの影響がスポーツの世界においても非常に大きいもので、この指標の中でも、特に令和4年度、制限は解除されつつあったものの、結果として数字が伸び悩むのは仕方ないことだと思います。他方、守山市でもそうなのですが、今年が非常に大事だと思います。結局一回やめてしまうと来年もやらない。やらなければ楽、という語弊があるかもしれませんが、皆様、大変な思いをして開催をされています。一回やめてしまうと、「もうやめてしまおうか」ということになると思うので、今年度が肝だと思っております。どんな形でも、小規模でも、フルでなくても再開する、大会を工夫しながらやっていくことも大事かなと思います。感覚的な話になるかもしれませんが、大会がコロナ前と同じよう戻っているのか、中止された大会の復活状況はどうなっているのか気になっておまして、どんな形でも今年度再開することが来年度以降つながるかなと実感

として持っておりますので、もし何か事務局の方でわかったらお願いしたいと思いますし、再開を後押しするものがあると良いのかなと思います。

もう一点は感想です。今回は第2期スポーツ推進計画の進捗状況の確認ということなので、2027年以降ということになってしまおうとは思いますが、滋賀としてスポーツをどうしようかという時に、残念ながらあまりにもマリンスポーツ・びわ湖の視点がなさ過ぎるのではないかと思います。計画全部を見ていないのでわかりませんが、資料や指標の中であまりにも触れられていない。またスポーツの線引きもカヌーのような明らかなスポーツもあれば、「SUPってスポーツなのか？アクティビティなのか？」ということもあるのかもしれないのですが、もう少しマリンアクティビティやスポーツ類似のものも含めて、滋賀らしいマリンスポーツを気軽にという視点が、あるなら教えていただいて、ないなら次期以降も滋賀の特色としてあっていいのかなというのが感想です。

(事務局)

一点目につきましては、様々なスポーツイベントが令和2年・3年と残念ながら中止等をされてきましたが、令和4年になって、大会等がほぼほぼ実施されるようになっており、「大会の火を消してはいけない」という思いを強く持っておられる方々が多くおられます。競技種目に関わらず、本県で開催される大なり小なりの競技大会は、ほぼ復活しているな、という認識をしているところでございます。また、国スポ・障スポに向けまして、シンボルスポーツの創出に向けて、各市町さんが取り組んでおられるものがあるかと思います。県としましても、シンボルスポーツの定着につながるような取組について支援していきたいと考えており、今年度から補助制度を設けたところでございます。

もう一点、いただきましたマリンスポーツにつきましては、第3期推進計画の42ページ「琵琶湖を舞台とした湖上スポーツの推進」の中で、「ボート、セーリング、カヌー、SUP等の湖上スポーツについて、スポーツ団体と連携しながら多くの人々が気軽に競技種目を体験、観戦できるよう推進します。」としております。また、本県では「びわ湖の日」(7月1日)で様々な活動を発信していますが、そういったところでどういうことが出来るのか、と言うのは引き続き考えていきたいと思っております。

(委員)

ありがとうございます。大会がおおむね復活していると聞いて安心しましたし、元に戻るように、我々も頑張っていきたいと思っております。SUPは湖上スポーツなのですね。

(会長)

個々の大会で違うとは思いますが、大会が継続されているという時に、国の助成金関係はいかがですか？オリンピック・パラリンピックが終わって、予算が大幅に減って、後押し力が弱っていると聞いてまして、その関連の話は出てきませんか。今後、事業展開にあたって、財源区分というのは大事になってきます。そのあたりはどうなっているのかなと思いました。

(事務局)

来年度の国の概算要求は、もう少ししたら出てくると思いますが、今年度の国予算では、いわゆるスポーツツーリズムなど、地方創生につながるようなものについては引き続き予算は計上されているように思います。ただ、スポーツコミッション等に補助金を交付するような制度になりますので、滋賀県ではなかなかそこまで出来ていないところでございます。

(会長)

大会実施には必ずそういうことがあるのでその辺りも考慮していただきたいと思っております。

(会長)

その他の意見がないようですので、議題1については終わりました、議題2に移らせていただきたいと思います。ご説明をお願いします。

(事務局)

それでは説明をさせていただきます。

・資料3 「みる」スポーツにつながる施策について

の説明

説明は以上となります。

(会長)

ありがとうございます。「みる」スポーツの意図をご説明いただきました。この事に関しましては委員お一人ずつに意見をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。プログラム・プロジェクト提案、どのようなスタイルでも構いませんのでご意見いただければと思います。

(委員)

障害のある方はどうしても「みる」スポーツが中心になると思うのですがけれども、一般のアスリートの方は注目されるけど、障害者スポーツの部分ではあまり注目されていないというお話しをしたときに、びわ湖放送で障害者スポーツの特集番組をつくっていただきました。

そこで私たちの仲間が輝いて取り組んでおられることを、一般の方も障害をある方も見て励みにして欲しいと思っています。障害を持つ方は、小さい頃の運動会は見学組でスポーツとは関係がないという環境で育ってきたので、大切な事だと思います。全国障害者スポーツ大会にとっても長い間関わらせていただき、自分でも出来るという思いを持つことができ、トップアスリートにはなれなくても色々な社会が広がることに意義があることを実感することができました。こうしたことは一般の方も障害を持っている方も意義があることなので、今後も障害者スポーツもメディアで注目されるようによろしくをお願いします。

(会長)

メディア露出を多くするということですね。ご意見だけを伺っていく形でよろしいでしょうか。

(事務局)

はい。

(事務局)

障害者スポーツのメディア露出について、前回の審議会で、国体等の結果について番組を制作する際に、障害者スポーツの大会については取り扱いが小さかったとの御意見をいただきましたので、そういったご意見も踏まえまして、昨年度末、今年3月末にそういった番組をびわ湖放送で企画していただいたところです。今も御意見をいただきましたので、引き続き障害者スポーツも含めて、同じようにメディアの中で露出していけるのかということを考えてやっていきたいと思っています。

(委員)

昨年、全国スポーツ推進委員研究協議会の滋賀大会を草津市で開催したのですが、ゲストの宇田選手にすごく楽しい講演をやっていただきました。そういった機会を増やしていただければ、選手の皆さんの顔も覚えられますし、素晴らしさも自分たちで実感して知ることができます。草津市の体育館にはプロバスケットボールチームが来られて、びっくりすることがありますが、試合を見る

機会がないので、市民の皆さんに練習などを見てもらおう機会を増やしてもらおうと少し身近に感じるのではないかと思います。

また、市内に新しく大きなプールも出来ますので、「国スポ後にどうやってこれを活用していくのかな？」というのは心配になりますので、滋賀県にこういった施設が出来ることを、市民を含めて県民の皆様が認識するようにPRも必要かなと思います。

(会長)

広報ということですね。

(委員)

はい。施設は大きくなっていくのですが、他の事が迫ってくるものがないですね。建物を見る機会というか、実際に確かめて見てもらおうといいのかなと思います。

(会長)

以前にも出ましたが、対象となる層によってチラシが有効であったり、ネット関係がよかったりという工夫が大事ですね。

(委員)

資料 21 ページの「多くの県民の皆様にはスポーツを現地で「みて」いただくには、どのような施策を展開するのが良いか」というところで、私は滋賀のスポーツはローイングの朝日レガッタとバスケットボールの滋賀レイクスを現地で見る人が多いのですが、現地に見に行くということと、テレビやインターネットで見るとということのハードルの違いは何か、自分なりに考えたところ、アクセス・現地の混み具合・駐車場の状況というのが気になって、そのハードルが低くなると行こうという気になるのかなと感じました。

どのような施策がいいのかを考えてみますと、箱の問題、駐車場の確保とか県内各地からアクセスがどのくらいスムーズに行けるのか事前に行けることができればいいと思いますし、現地ではスポーツボランティアの方々に誘導の人員を割いていただくとか、そういったところが必要かなと感じました。

(委員)

今年度から観客の制限を外すということで、中体連の大会などでも保護者がフリーで入れるいう形になってきています。去年までは入れて欲しいというような声が多くて、対応に苦慮したこともあったのですが、今年はそういったトラブルもなく、入場できています。やはり自分の知っている子供、近所の方が応援に来られるなど、身近な人が出ると見に行くということが出てくるのかなと思います。

全国中学校駅伝を毎年 12 月に滋賀県でやらせていただいているのですが、自分と関わりがある子供が出ると遠方からでも来ていただける。そういう機会を作っていくということが大事なのではないかと思います。私の周りはタイガースファンが多いので、甲子園に足を運ぶという人も多いため、メディアに露出していて、大きなスポーツを滋賀県に呼んでくると、実際に足を運ぶということは多くなってくるのかなと思いますし、色んな種目を網羅できると数字的には上がっていくのかなと感じています。

あと、TVやネットで手軽に見られると現地に足を運ぶということはだんだん少なくなっていくような気がします。TVでビール片手にクーラーを効かせながら見るのが好きというのもあると思いますし、好きな人は現地の臨場感を求めていくと思いますし、機会が増えるというのは大きいのかなと感じています。

(会長)

「みる」からリアルなスポーツにどうつなげるかということで、見た上でリアルなスポーツに行きましようということですね。そういったことを研究している人もいまして、結構繋がっていくようです。

仰るように臨場感を出せばワクワク感は出るので、例えばスポーツ庁は、スポーツDXを推進していて、具体的に言えばNTTと連携しながら、その方面にどうリリースするか。スポーツ庁というよりは経済産業省から言われているのですが、そういう技術を少し入れていけばいいのではと思います。例えばeスポーツもそうで、やってる人も見ている人もすごく興奮しています。その辺も研究いただければと思います。

(委員)

守山市内には野洲市との共管でビックレイクというサッカー場があり、人も多く入れるような試合もやっています。先日、関西サッカーリーグ1部で守山市を拠点にしている2チーム、レイジェント滋賀と守山侍が「守山ダービー」と銘打って試合を開催したのですが、JFLの下ということもあって、レベルは高いものの観客は関係者しかいないような状況で、折角やってるのに見る人が少なく寂しいなと思いました。

今回どうすればいいのかということで難しいと思ったんですが、他方で、守山市民に聞いても関西リーグの一部に2チームもいるということをもともと知らないですし、ましてやビックレイクで試合をしていることも知らない。もちろん広報とかにも載せているのですが見えていない。滋賀レイクスターズや東レアローズのような大きなチームは良いのですが、私が思ったのは、それ以外にもハイレベルな試合が滋賀県内で行われていると思うのですが、先程、駐車場やアクセスが課題という意見がありましたが、その前段として皆さんが知らないのです。色んなハイレベルな大会を滋賀で開催される際に、学校でもプリントを配るというのを先生方をお願いしていました。教育現場も忙しいので、今はLINEやシステムからデータで配れるようになっているので、どこまで配るかはあるとは思いますが、全日本レベルの大会などが今週はココでありますよ、みたいなものが子どもや保護者に配信出来たら、見ようかなと思う子も増えるのかなと思いました。僕も含めて皆さん、どこで何をやっているのか一切知らないので、大きな課題かなと思いました。

それともう1点、ある事業者さんが企業版ふるさと納税で動画配信の高速のカメラのシステムを寄贈しますよ、という話しをしたことがあるのですが、それは国スポを想定した話しであり、ビックレイク側は配信するような機会があるかどうか分からないということでした。国スポのサッカーはニーズがあるのですが、それが終わった後に、そんなシステムを持っていても配信する試合がないのではないかということをやられていて止まっているのですが、そういう技術が沢山できて来て簡単にハイクオリティな試合配信ができるそうです。これからの時代、TV中継がないものでも、こうした技術を活用して家でビールを飲みながら見られるようになるので、あとは競技場側の導入や管理というところが大きいと思うのですが、そういうこともやっていくと「みる」チャンネルも増えるのかなと思いました。

(委員)

私からも「みる」という観点からなのですが、長浜市は国スポ・障スポに向けていくつかの競技をします。私の地元では柔道の大会があるのですが、昨年あたりから市の方で盛んに色々な選手を呼んできたり、天理大学の穴井監督を呼んできていただいて柔道教室をしたり、またこの9月にも今年2回目の東レアローズのバレーボール教室もされます。このチケットが2日を待たずに完売したとも聞きました。こちらはすごく柔道も盛んな地域ですし、スポーツ少年団ではバレーボールなども行われていますので、子供たちが素早く反応されるのですが、一方で「みる」というところでは、「参加者は増えるけれども観覧席を埋めるのはどうしたらいいのか」という話しが出ています。以前、伊香ツイーンアリーナができた際に、私の総合型クラブでも軽スポーツなどのニュース



ポーツで協力をさせていただいたこともあるのですが、皆さんに見ていただく・応援していただくという区分で、例えば野球でしたらスピードガンの体験があるとか、剣道でしたら子供たちにはスポーツチャンバラ、ママさんたちにはチャンバラフィットネスを体験するとか、そういうことを別会場でやって興味を持っていただく、そして実際の競技を見ていただく、そういったミニイベントを同時に開催するのも「みる」というところにつながって、少しでも観覧席が埋まるのかなと思っています。スポーツイベントをする際に、キッチンカーを呼ぶなどの来ていただくきっかけがあって競技を見ていただくところ、興味も持っていただいて、子どもたちがこれをやってみようかなというところから参加につながるというのが、これから国スポ・障スポを準備していく際に大事ではないかなと思います。

それと今年コロナが5類に移行してから、企業の福利厚生で「ボッチャはないか」「ユニカーブを教えて欲しい」という問い合わせがありまして、この冬に会社で100人程度集まるユニカーブの大会を開催するのに協力をさせていただくのですけれども、今年からそういうことも増えていくでしょうし、大小関わらず国スポ・障スポに向けてイベントが増えていくと思いますので、スポーツ参加率に繋がっていくと思います。

(委員)

現地で「みる」というのが大事だとは思っているのですが、特に今の若い人や自分自身もそうなのですが、馴染みのないスポーツをいきなり見に行くというのはならないので、現地に行ってもらい呼び水としてYouTubeやSNSを活用するのがいいと思います。それを見て、現地で見たいという順番があると思います。いきなり現地で見ようというプロセスはなじまないと思います。

世界水泳が終わって、土曜日から同じ場所でマスターズの世界水泳をやっていて、1レースずつYouTubeで配信しているのですが、それ見た自分と同じスポーツクラブの会員さんが、「現地で生のレースを見たい」と言って、足を運んでいるので、うまく併用して、現地に誘い込むというのが見るにつながるのかなと感じています。

(委員)

スポーツ協会の立場として述べさせていただきます。県内の国スポに向けて、体育館・陸上競技場ができ、プールも建設中ということで整備されつつあるのですけれども、競技団体の方と喋っていると、立派な施設ができたのでレベルの高い大会を誘致して県民の皆様に見ていただきたいという思いを持っていらっしゃると思いますが、諸々の開催経費が掛かるので少しでもいいので支援をしてもらえないか、ということをお聞きしています。そこは現実だと思いますし、何か支援が出来るかと開催しやすいのかなと思います。

立派な施設ができましたので、色々な競技大会が滋賀県で開催できると良いなと思っています。その周知などの課題は先程から沢山出ておりますが、それもひっくるめてそういう大会が身近な場所で見られるのだということを進めていくことが大事だと思います。その為に支援や連携していくと、「みる」スポーツとして発展していくのかなと思います。

(会長)

委員の皆様から一言ずつ御意見をいただきました。各委員の御意見を参考に、事務局の方でご検討いただくということにしたいと思います。

それでは議題3に移らせていただきます。

(事務局)

その他の事項につきましては、特にございません。

(会長)

それでは、本日の議事はこれもちまして終了といたします。事務局にお返しいたします。  
ありがとうございます。

(事務局)

横山会長ありがとうございました。

本日第2期滋賀県スポーツ推進計画の進捗状況や「みる」スポーツに向けた施策展開に向けてご議論いただきました。誠にありがとうございました。皆様からいただきました貴重なご意見を議会への報告などに反映させるとともに、各事業に積極的に反映させていただきたいと思っております。皆様には引き続き、本県のスポーツ振興にご協力、ご支援いただきますようお願い申し上げまして、本日の審議会を終了させていただきます。ありがとうございました。

※文中のゴシック文字には、割愛・省略があります。